

タスキに思いをこめて  
しおかぜ駅伝

12/9  
日

「第27回浜田ー益田間駅伝競走大会(しおかぜ駅伝)」が、益田陸上競技場としまねお魚センターを結ぶ、9区間、41.295キロのコースで開催されました。  
飯南チームは、久しぶりに走る社会人から初めて走る中学生まで、どの選手もこれまでの練習の成果を発揮し、全38チーム中26位、2時間30分30秒と健闘しました。ご声援ありがとうございました。



出場選手の皆さん



ゴールに駆け込む  
下宮さん

区間	選手名	備考
第1区	福間 青空	飯南高校1年
第2区	山戸 悠生	頓原中2年
第3区	木村 尚弥	飯南高校1年
第4区	安部 凌生	飯南高校2年
第5区	上田 荘也	赤来中3年
第6区	戸田菜々海	赤来中1年
第7区	加藤 郁海	団体職員
第8区	飯島 義仁	団体職員
第9区	下宮 雅行	団体職員
控	山戸 果音	飯南高校1年
控	石田 壮太	赤来中2年
控	本間 大介	頓原中2年
控	上田 詩乃	赤来中2年
控	加治 賢悟	飯南高校3年

人権作文コンテスト  
高橋里奈さんが入賞

第38回全国中学生人権作文コンテスト出雲地区予選で、頓原中学校の高橋里奈さん(1年)が「出雲人権擁護委員協議会長賞」を受賞しました。

高橋さんは、日頃の生活体験やニュースを通じて、「言葉は使い方次第で、うそや相手を傷つける凶器にもなり得る。人を傷つけるのではなく人を救う言葉を使いたいし、自分の言葉や行動に責任を持ちたい」と



高橋里奈さん

いう考えと思いを、作文にまとめました。

子どもたちが福を届ける  
益田糸操り人形 特別公演

12/1  
土

赤名地域まちづくり連絡会の交流事業「寄ろうでえ〜赤名川」で、赤名農村環境改善センターを会場に、「益田糸操り人形」の特別公演が開催されました。

益田糸操り人形は、島根県無形民俗文化財に指定される日本で最も古い形態の糸操り人形。町内外から集まった約90人の来場者は、糸操り人形の妙技に見惚れていました。「寄ろうでえ〜赤名川」は、毎月第3金曜日13時30分から、赤名の福島邸で開催。2月15日には、「三次人形のお話」などの企画が行われる予定です。

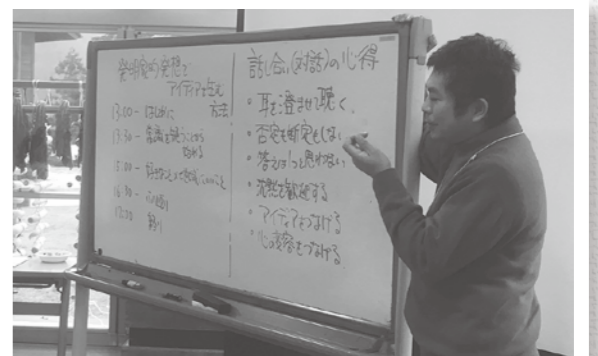


まるで本物の人のような動き

あなたも発明家に  
第3回 ヒトカラ  
Hitocolor・イイナン

12/16  
日

講師に伝えました。  
受講者からは、空き家を活用して、毎週日曜日に、のど自慢のパブリックビューイングを行うといった斬新なアイデアも聞かれました。  
全6回の共創デザインスタジオ「ヒトカラ Hitocolor・イイナン」は、次回で4回目。折り返し地点を迎え、参加者のなかにも変化が現れてきたのではないのでしょうか。



講師の山口覚さん

今回は「発明家的発想でアイデアを生む方法」をテーマに、頭を柔らかくしながら、飯南町でできたおもしろそうなことを考えました。  
はじめに、考え方を柔らかくするため「ある人は、富士山の頂上に1時間で行けると言い、ある人は行けないと言いがなぜ?」という問いに対してみんなで話し合いました。  
講師の山口覚さんは、「発明家は、大多数が不可能と信じるものを見つけると喜ぶ。なぜなら可能にすることが発明家の仕事だから。不可能と思えるところに発見がある」と受



発明は常識を疑うことから始まる

ライオンズ国際平和ポスター・コンテスト  
武田泉美さんが最優秀賞

このコンテストを主催した、ライオンズクラブ国際協会は、世界200以上の国と地域に、4万7千を超えるクラブと140万人を超える会員を擁する正解最大の奉仕クラブ団体。  
赤来ライオンズクラブと頓原ライオンズクラブは、この国際協会に加盟しています。  
赤来ライオンズクラブでは、交通安全パレードやホタルの放流、使わなくなったがねを回収し発展途上国に寄付するなど、社会奉仕活動を行っています。



赤名小学校で表彰状の  
伝達式を行いました

ライオンズ国際平和ポスター・コンテストの地区大会(島根・山口)で、赤来ライオンズクラブが推薦した、赤名小学校の武田泉美さん(5年)と河原吉美さん(6年)の作品が、それぞれ最優秀賞、入選を受賞しました。  
また、最優秀賞の武田さんの作品は、複合地区大会(中国・四国地方)にも選出され、優秀賞を受賞しました。  
コンテストは、ライオンズクラブ国際協会が主催し、今回で31回目。今回のテーマは、「思いやりは大切なこと」とされました。



武田泉美さん